

# 東北地方 3か月予報

(2月から4月までの天候見通し)

平成22年1月25日  
仙台管区気象台発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

2月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

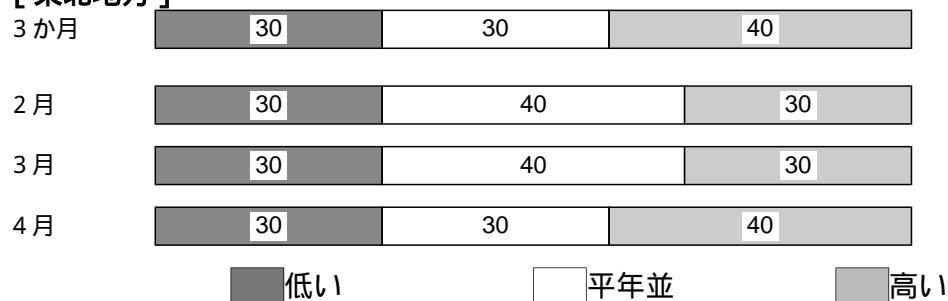
3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

## <向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

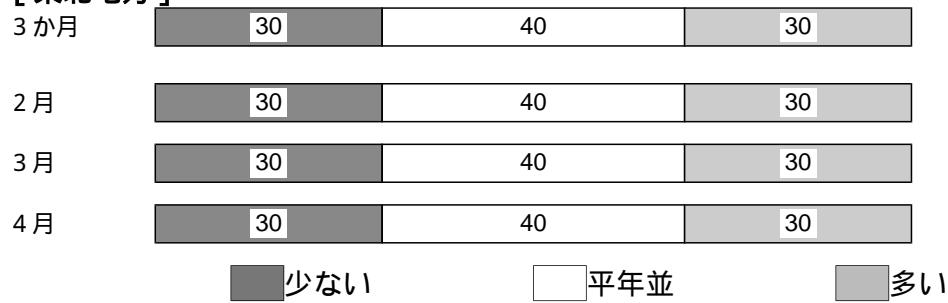
### <<気温>>

#### [東北地方]



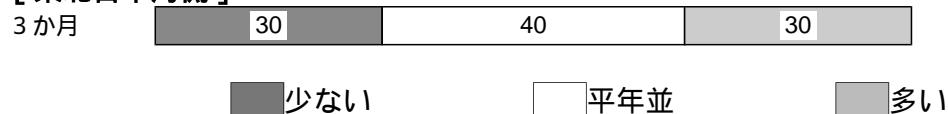
### <<降水量>>

#### [東北地方]



### <<降雪量>>

#### [東北日本海側]



**<次回発表予定等>**

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は1月29日

3か月予報：2月25日(木) 14時

暖候期予報：2月25日(木) 14時

2月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

## <参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量、日照時間、降雪量)

	気温( )				降水量(mm)				日照時間(時間)			
	2月	3月	4月	2月~4月	2月	3月	4月	2月~4月	2月	3月	4月	2月~4月
青森	-1.1	2.0	7.9	2.9	116.0	69.5	60.7	246.2	72.9	140.8	187.3	401.1
深浦	-0.2	2.6	8.3	3.6	77.3	78.3	93.3	248.8	48.8	120.0	174.7	343.4
むつ	-1.5	1.4	7.2	2.4	84.9	77.3	81.1	243.9	91.8	154.3	193.8	439.9
八戸	-0.9	2.3	8.3	3.2	52.7	51.6	58.9	163.2	131.8	173.8	194.3	499.8
秋田	0.2	3.2	9.2	4.2	92.0	93.0	117.6	302.6	65.6	135.7	175.0	376.3
盛岡	-1.6	1.8	8.4	2.9	54.9	80.1	93.8	228.8	128.9	167.3	175.1	471.3
大船渡	0.9	3.5	9.0	4.4	58.2	91.8	138.0	288.0	141.9	168.7	176.0	486.5
宮古	0.3	3.0	8.7	4.0	79.6	85.9	96.3	261.8	151.2	182.9	192.3	526.4
仙台	1.7	4.5	10.1	5.4	48.4	73.0	98.1	219.5	151.9	182.3	190.9	525.1
石巻	0.9	3.7	9.2	4.6	44.3	70.3	91.8	206.4	162.6	189.7	192.6	544.9
山形	-0.2	3.1	9.8	4.2	70.2	66.5	68.1	204.8	99.3	146.5	180.3	426.0
新庄	-1.0	2.0	8.1	3.0	145.3	112.1	98.3	354.2	56.3	117.2	150.2	325.6
酒田	1.4	4.2	9.8	5.2	115.3	103.5	105.5	324.3	60.0	126.1	173.1	359.1
福島	1.8	4.9	11.3	6.0	49.8	76.9	79.5	206.2	144.3	179.2	188.6	512.1
若松	-0.4	3.0	9.9	4.1	70.2	63.9	63.4	197.5	97.3	140.1	175.8	413.2
白河	0.5	3.6	9.8	4.6	41.4	71.1	100.5	211.5	152.4	183.4	184.2	522.2
小名浜	3.7	6.2	11.1	7.0	61.9	106.1	128.3	296.2	175.0	187.8	186.1	548.9

	降雪量(cm)			
	2月	3月	4月	2月~4月
青森	205	97	9	311
深浦	114	53	3	170
むつ	160	95	7	262
八戸	103	56	6	164
秋田	120	51	2	172
盛岡	98	60	6	163
大船渡	27	13	1	41
宮古	72	47	5	124
仙台	31	15	1	47
石巻	24	11	1	36
山形	147	71	3	222
新庄	242	134	20	396
酒田	119	43	1	162
福島	73	34	3	110
若松	160	74	6	241
白河	51	32	3	86
小名浜	7	2	0	9

欠測により平年値を求めるための資料年数(観測値のある年数)が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1971~2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	2月	3月	4月	2月~4月
気温平年差( )	東北地方	-0.4 ~ +0.5	-0.4 ~ +0.4	-0.3 ~ +0.5	-0.3 ~ +0.4
	東北日本海側	-0.3 ~ +0.4	-0.4 ~ +0.4	-0.5 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.4
	東北太平洋側	-0.4 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.3	-0.5 ~ +0.5	-0.3 ~ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	80 ~ 109	87 ~ 111	89 ~ 112	95 ~ 108
	東北日本海側	95 ~ 108	90 ~ 109	90 ~ 110	97 ~ 105
	東北太平洋側	69 ~ 117	78 ~ 120	84 ~ 113	91 ~ 109
降雪量平年比(%)	東北地方	78 ~ 118	78 ~ 117	27 ~ 115	78 ~ 118
	東北日本海側	87 ~ 115	79 ~ 118	27 ~ 139	90 ~ 115
	東北太平洋側	73 ~ 119	66 ~ 106	13 ~ 89	73 ~ 118

## <参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。

# 東北地方 3か月予報解説資料 (2~4月)

平成22年1月25日 仙台管区気象台

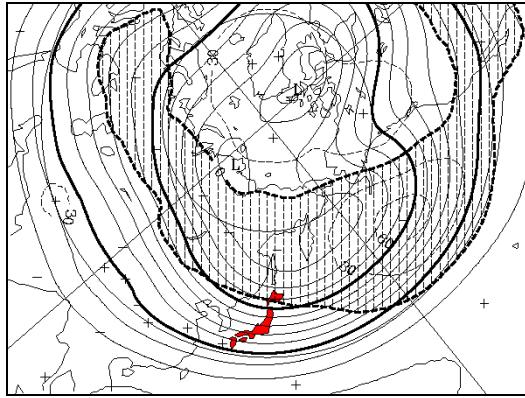
## 1. 向こう3か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
2~4月：	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
2月：	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
3月：	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
4月：	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
2~4月の東北日本海側の降雪量は、各階級の確率の偏りは小さい		

## 2. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

### 3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

予想図では、東北地方より南は正偏差（平年より高度が高く、一般に暖気に対応）におおわれるが、日付変更線の東から東シベリアにかけて負偏差が広がり、北海道付近も負偏差。高温傾向だが一時寒気の影響を受ける予想。また、北極の寒気の動向に関する北極振動については不確実性が大きく、北極振動の影響を受けやすい東北地方では、寒気の影響を考慮する。



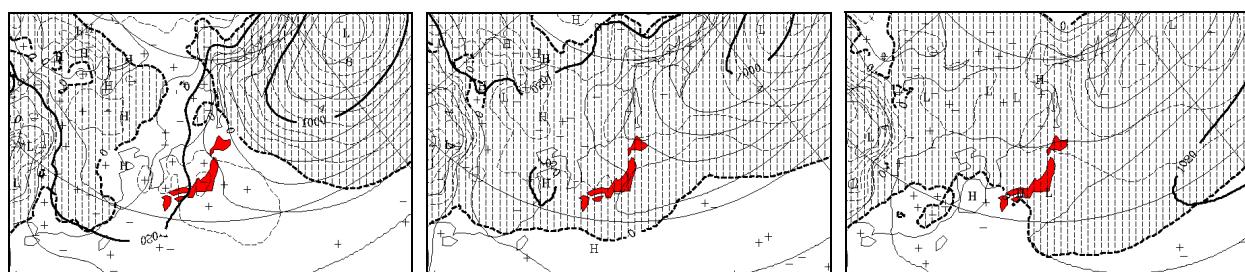
3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図  
実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎  
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

### 月別の地上気圧と偏差の予想図（下図）：

2月：日本付近は正偏差だが、アリューシャン低気圧が強く、北日本は平年と同様の冬型の気圧配置が予想される。

3月：日本付近は広く負偏差の予想。東西方向の等圧線の間隔は広がり、高気圧と低気圧が交互に通り、平年と同様に天気は数日の周期で変わる見込みだが、月別500hPa高度と偏差予想図（図略）では北海道以北が負偏差となっており、寒気の影響を受ける時期もある見込み。

4月：日本付近は広く負偏差の予想。東西方向の等圧線の間隔は広く、高気圧と低気圧が交互に通り、平年と同様に天気は数日の周期で変わる見込み。



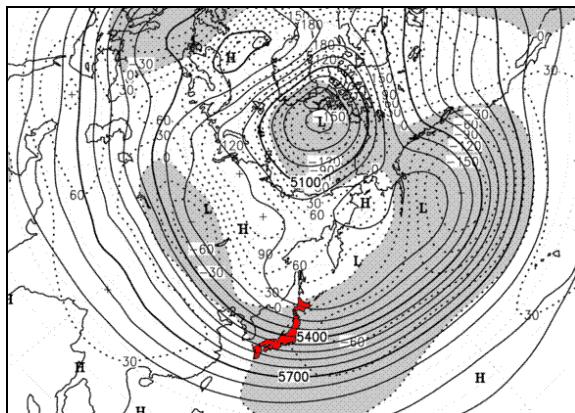
月別の地上気圧と偏差の予想図（左から2月、3月、4月）

実線は等圧線 4hPa 毎、点線は偏差 1hPa 毎、陰影部は負偏差

## 3. 今月の循環場の特徴

1月(20日まで)：500hPa高度では、シベリアを中心にサハリン付近まで正偏差、一方、日本の東海上から本州付近にかけては負偏差で、日本付近は寒気の影響を受けやすい偏差分布となった。

東北地方では上旬の中頃から中旬のはじめや中旬の終わりは気温の高い日が多くなったが、上旬のはじめや中旬の中頃は強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、気温の低い日が多くなるなど、気温の変動が大きかった。



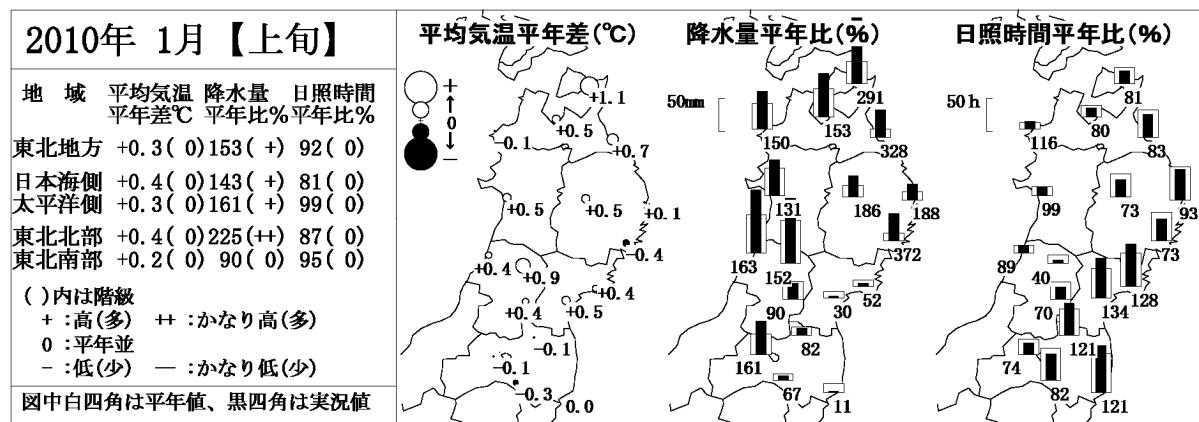
1月1日～20日の平均500hPa高度

実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎、陰影部は負偏差

#### 4. 最近の天候経過

1月上旬：この期間、冬型の気圧配置となる日が多かった。東北日本海側や東北太平洋側北部では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側南部では晴れの日が多かった。なお、1日は強い冬型の気圧配置、5日、6日は低気圧が発達しながら通過した影響で、各地で強風害が発生した。

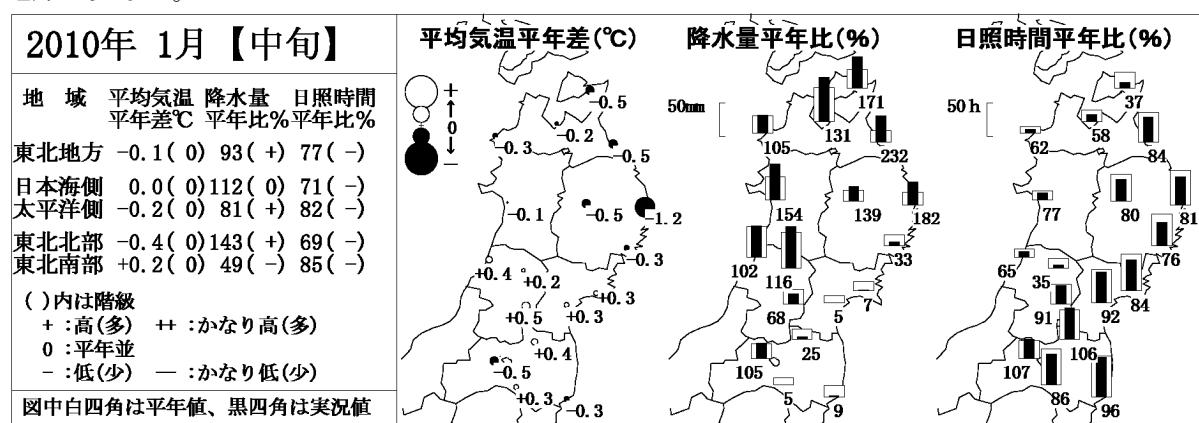
平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部でかなり多く、東北南部で平年並。日照時間は東北地方で平年並。



東北地方における1月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

1月中旬：期間のはじめと終わりは低気圧の影響により、東北北部を中心に曇りや雪または雨の日が多くかった。期間の中頃は強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪の日が多く、東北太平洋側は沿岸部を中心におおむね晴れた。13日は、低気圧が発達しながら三陸沖を北東進した影響で山形県や福島県で強風害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。日照時間は東北地方で少ない。



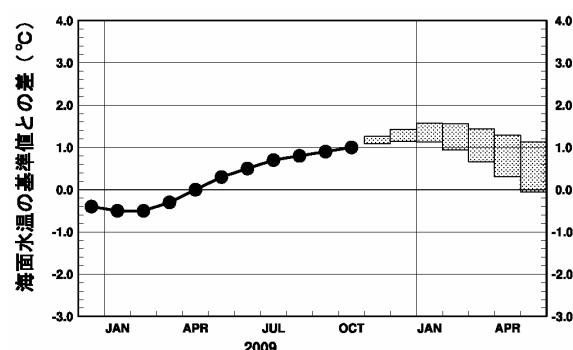
東北地方における1月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

#### 5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

12月の太平洋赤道域の海面水温は、中部と東部で顕著な正偏差だった。海洋表層（海面から深度数百mまでの領域）の水温は、太平洋赤道域の東部で顕著な正偏差だった。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後春にかけて基準値より高い値で推移するが、次第に基準値に近づくと予測される。

エルニーニョ現象が発生しており、春にかけて持続する可能性が高いと考えられる。



#### <参考資料>

##### 平年の天気出現日数（日）

エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値の推移（折れ線グラフ）と今後の予測（ボックス）

	2月		3月		4月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	6.6	17.9	13.3	19.8	16.8	18.2
雨の日	16.6	7.0	14.0	8.3	10.9	8.9

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。